

2022年3月実績概要(メモ)

(2022.4.20)

エチレン及び各誘導品における定修時期の集中に伴い、近年では稀なる減産。

1. 生産動向

イ) エチレン 374,900トン

前月比 ▲14.3% (▲62,300トン)
 前年同月比 ▲33.6% (▲189,400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+10.7%	-
定修要因等	▲30.2%	▲34.5%
能力増減	-	-
稼働率変動	+5.2%	+0.9%
生産増減率	▲14.3%	▲33.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92.3%* → 当月96.1% ← 前年同月95.3%
 定修プラント：前月1社1プラント → 当月4社4プラント ← 前年同月なし
 令和3年度(会計年度) エチレン生産量 6,061.4千トン 前年度比 +0.4%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加に対し定修系列数の増加等から、HDPE、PS、SM、塩ビ樹脂、EO、SBRなどの11品目がマイナス。LDPE、MMAモノマー、ANなどの6品目は日数増、定修規模差等からプラスとなった。

前年比では、主に定修規模の増加から、LDPE、HDPE、PP、PS、SM、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BR、ベンゼンなどの16品目がマイナス。キシレンのみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比は、日数が増加した一方で、定修系列数の増加がある中、稼働率が上昇したLDPEはプラス。HDPE、PP、PSは稼働率の低下も加わりマイナスとなった。

前年比は、定修系列数の増加を主としてLDPE、HDPE、PP、PSで大幅な減産となった。

ロ) 国内出荷

月下旬からの主要地域でのまん延防止等重点措置の解除もあり、消費期待感からの街角景気の改善見込や国内製造業における生産計画でも輸送機械、電気・情報通信機械等で増加に寄与する産業が目立つようになった。しかし、その一方で資源価格の高騰が続いており消費動向では悪化が見られつつある。

汎用樹脂の出荷は、定修系列数の増加に伴う供給減に対し、在庫からの出荷が行われた結果、前月比は、LDPE、HDPE、PP、PSともに二桁台のプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス。分野別の出荷状況でもLDPEはほぼ全ての出荷分野でマイナス。HDPEは射出成形以外の分野でマイナス、PPは射出成形分野、フィルム分野などほとんどの分野でマイナスとなった。PSはFS分野、電機・工業用分野の減少が大きくなった。但し、出荷水準としては、いずれも期末の3月単月の出荷量としては一定の水準を維持している。

ハ) 輸出

前月比は、原料市況の上昇を受け、樹脂の市況でも改善が見られるも、需要サイドでは目立った動きが見られず、当月は、LDPE、PSはマイナス。HDPE、PPはプラスとなった。

前年比は、輸出玉が限られていることもあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで大きく減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで低下。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともほぼ適正となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LDPE	▲25,700	3.2	3.0
HDPE	▲24,600	3.5	2.9
P P	▲54,600	3.2	2.8
P S	▲16,100	2.1	1.7

以上

前月からの修正を*で付記